

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	青葉保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 岡田 早苗	定員（利用人数）：	109（105）名
所在地：	225-0005 神奈川県横浜市青葉区荻子田3-23-10		
TEL：	045-904-0691	ホームページ：	http://seisyou-kai.jp/aoba/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	1999年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 晴翔会		
職員数	常勤職員： 21 名	非常勤職員：	8 名
専門職員	保育士 24 名	栄養士	2 名
	看護師 0 名	調理員	2 名
	用務員 0 名		
施設・設備の概要	居室数： 保育室4室、ホール、調理室、医務室、園長室、事務室、図書の部屋、会議室	設備等：	テラス、砂場、駐車場

③理念・基本方針

保育理念：子どもの最善の利益を第一に考え、子どもが主体となって生活し、一人ひとりが持つ可能性を引き出せるよう、全ての保育者が協働して保育を行う。
保育目標：丈夫な体と豊かな心。心身の健やかな育ちと豊かな感性を支える。
保育方針：子ども主体の遊びの流れや夢の広がりを大切に。オープンスペースの中で子どもの育ちと生活を守る。年齢の枠などにとらわれない子どもの自由な発想と、好奇心を育むプログラム、同年齢の共通体験、異年齢の関わりを、バランスよく。無理なく。

④施設・事業所の特徴的な取組

社会福祉法人晴翔会が運営する青葉保育園は、平成11年4月開園の保育園です。東急田園都市線「たまプラーザ」駅北口から東急バスあざみ野ガーデンズ循環で10分、「桂子田3丁目」下車徒歩1分ほどのところにあります。園舎は広々としたオープンスペースでランチルームに隣接して厨房があり、給食を作る際の音やおいしそうなおいが感じられます。ホールや保育室は床暖房、オゾン殺菌脱臭機を設置しています。

保育理念は「子どもの最善の利益を第一に考え、子どもが主体になって生活し、一人一人が持つ可能性をひきだせるよう、全ての保育者が協働して保育を行う」です。近隣の環境は、戸建て住宅が整然と並び閑静な住宅街で、すぐ裏手には、バラ園のある小山の公園があり、付近には高校や大きな公園、緑地もあります。こうした環境の中、子どもたちは伸び伸びと過ごしています。情操教育の一環として、体操、新体操、英語を実施しています。これらは専任の外部講師により、子どもの発達状況に合わせてカリキュラムを組んでいます。体操では、3～5歳児が巧技台や跳び箱などの体操器具を使用して、体力の基礎作りを行っています。新体操では、4、5歳児がボールやフラフープなどの新体操手具を使用して、柔軟性や運動能力を高めています。英語遊びでは、4、5歳児が歌やゲームなどの遊びを通して、外国人講師とともに英語に慣れ親しんでいます。このような多くの体験をしながら、子どもたちは豊かな感性をはぐくんでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月1日 (契約日) ~ 2023年2月6日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	1 回 (2017 年度)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆保護者とともに一人ひとりの子どもの育ちを見守っています

園では、子どもの成長の喜びを共有する取り組みとして、子ども一人ひとりに年4回、「経過記録（保護者との共有記録）」を発行しています。子どもの成長の姿を保育士がまとめ、保護者からは我が子への思い、家庭での様子などを記入してもらい、双方のやりとりによって子どもの成長を共有しています。互いの共通理解のもと、ともに保育をすすめていくための記録です。園が一人ひとりの子どもの個性を引き出し、豊かな感性を愛情を持ってはぐくんでいるのかがわかる内容です。保護者とともに子どもの成長を喜び見守っていくという園の思いが込められています。保護者が感じたことや疑問、不安などを職員にも周知し、保護者への配慮もしています。

◆保育実践に重点化し、業務省力化を引き続き検討されることを期待します

当園では、職員一人ひとりが気持ちにゆとりをもつことで、保育内容の充実が図ることができると考えています。そこで、業務の省力化による職員の負担軽減を課題として捉えています。職員会議では、コロナ禍で予防対策の業務が増加したなか、この課題の解決に向けて、なくとも支障のない業務を精査して廃止しています。省力化による余力を保育実践により重点化し、保育の質の向上を図っていきたくとしています。現在はICT化も検討しています。今回のコロナ禍の対応として、ICT化を進めたケースは多いので、先事例を参考としながら、さらに検討を進めることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自己評価を行うにあたって、特に共通評価基準の内容を保育所の事業内容と照合させるのが難しく、基準の捉え方のずれによって自己評価結果と第三者評価結果との差異が生じた箇所があったと思われます。評価の視点として、当園の取り組みにおける強みを捉えて評価して頂いた点は励みにしていきたいと考えます。今後の課題として「職員の職務に関する成果や貢献度などを評価すること」が挙げられていましたが、一人ひとり異なる役割を担い、それぞれの力を発揮する職員を一定の基準で評価する難しさを感じています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり